

授業科目	スタディースキルⅡ				
担当者	藪中良彦, 牧之瀬一博, 田中稔 (すべて実務経験者)			(オムニバス)	
実務経験者の概要	藪中良彦 (理学療法士として, 肢体不自由施設で20年間, 小児訪問リハビリテーションで5年間の実務経験) 牧之瀬一博 (理学療法士として慢性期医療施設, 通所リハ, 訪問リハなどで10年の実務経験) 田中稔 (理学療法士として整形外科クリニック, デイケアでの実務経験) 講義は毎時間, 3名の担当者が担当する。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法士として欠かせない徒手筋力検査・関節可動域検査に関わりが深い, 筋の起始・停止, 作用, 触診に関わる学習を行う。これらの学習成果は実技を通して確認する。同様に, 関節可動域検査, 徒手筋力検査についても習得を目指す。

また, 国家試験の頻出箇所である解剖・生理に関する学習も同時に進める。

■ 到達目標

- ・理学療法技術の習得に向けて, 計画的に学習に取り組むことが出来る。
- ・MMTとROM測定に関わる主要な筋群を理解する。
- ・それらの筋の起始・停止を明示し, 作用を説明できる。更には, 正確な触診が行える。
- ・ROM検査を正確に行うことができる。
- ・MMTを正確に行うことが出来る。
- ・解剖・生理学の知識を身につけ, 頻出箇所は8割以上の正答出来る。

■ 授業計画

第1回	オリエンテーション				
第2回	上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	1	(肩甲帯周囲)		
第3回	上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	2	(肩関節)		
第4回	上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	3	(肘関節)		
第5回	上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	4	(前腕前面)		
第6回	上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	5	(前腕後面)		
第7回	上肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	6	(手関節)		
第8回	下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	1	(股関節)		
第9回	下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	2	(大腿前面)		
第10回	下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	3	(大腿後面)		
第11回	下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	4	(下腿前面)		
第12回	下肢筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	5	(下腿後面)		
第13回	体幹筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	1	(体幹前面)		
第14回	体幹筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	2	(体幹後面)		
第15回	頭頸部・顔面筋の走行 (起始・停止), 作用, 触診について	1	(頭頸部・顔面)		
第16回	オリエンテーション				
第17回	ROM検査 (体幹・下肢)	1	体幹屈曲 / 伸展, 側屈, 回旋		
	国家試験基礎部分の復習	1			
第18回	ROM検査 (体幹・下肢)	2	股関節屈曲 / 伸展, 外転 / 内転, 外旋 / 内旋		
	国家試験基礎部分の復習	2			
第19回	ROM検査 (体幹・下肢)	3	膝関節屈曲 / 伸展, 足関節底屈 / 背屈, 足部外がえし / 内がえし		
	国家試験基礎部分の復習	3			
第20回	MMT (体幹・下肢)	1	体幹伸展, 屈曲, 回旋		
	国家試験基礎部分の復習	4			

第21回	MMT (体幹・下肢)	2	股関節屈曲, 屈曲外転外旋, 伸展 (分離含む), 伸展 (仰臥位での別法) 国家試験基礎部分の復習	5
第22回	MMT (体幹・下肢)	3	股関節外転, 屈曲位外転, 内転, 膝関節屈曲, 伸展 国家試験基礎部分の復習	6
第23回	MMT (体幹・下肢)	4	足関節底屈, 背屈内がえし, 内がえし, 底屈外がえし 国家試験基礎部分の復習	7
第24回	ROM 検査 (上肢)	1	肩甲骨屈曲 / 伸展, 挙上 / 引き下げ, 肩関節屈曲 / 伸展, 国家試験基礎部分の復習	8
第25回	ROM 検査 (上肢)	2	肩関節外転 / 内転, 外旋 / 内旋 (1st / 2nd どちらも), 水平屈曲 / 水平伸展 国家試験基礎部分の復習	9
第26回	ROM 検査 (上肢)	3	肘関節屈曲 / 伸展, 前腕回内 / 回外, 手関節掌屈 / 背屈, 橈側 / 尺屈 国家試験基礎部分の復習	10
第27回	MMT (上肢)	1	肩甲骨外転・上方回旋, 挙上, 内転, 下制と内転, 内転と下方回旋 国家試験基礎部分の復習	11
第28回	MMT (上肢)	2	肩甲骨下制, 肩関節屈曲, 伸展, 外転 国家試験基礎部分の復習	12
第29回	MMT (上肢)	3	肩関節水平内転, 水平外転, 肩関節外旋, 内旋 国家試験基礎部分の復習	13
第30回	MMT (上肢)	4	肘関節屈曲, 伸展, 前腕回内, 回外, 手関節屈曲, 伸展 国家試験基礎部分の復習	14

■ 評価方法

学習成果 (実技の確認や科目試験 [筆記試験], 提出課題) で100%とする。

出席：正当な理由のない欠席や遅刻については減点する (欠席：-4点、遅刻：-2点)

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

授業参加態度：授業への参加態度に問題があり、警告を与えた後も問題が持続する場合は、減点対象とする (1回：-1点)

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格 (留年) とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

理学療法士に必須の知識・技術である。

紙面上の知識についてはテキストの該当ページを用いて予習を行ってこよう。該当箇所は都度提示する。技術の習得には授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。上記の学習計画に基づき、以下の状況で講義に参加すること。

- ・それぞれの筋の起始・停止を明示出来る、作用を説明出来る、正確な触診が行える。
- ・ROM 検査も同様に測定肢位、基本軸・移動軸、注意点などを理解し、正しく測定が行える。
- ・MMT では、関係する筋群、測定肢位、運動方向、抵抗位置、注意点などを理解し、正しい測定が行える。

■ 教科書

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢

著者名：青木隆明（監修），林典雄（執筆）

出版社：メジカルビュー社

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹

著者名：青木隆明（監修），林典雄（執筆）

出版社：メジカルビュー社

書名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書名：PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編

著者名：ヒントレ研究所

出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

この科目内容を理解・定着するためには、「解剖学」「生理学」「運動学」「評価学」などの科目の理解が重要である。